

天草イラストマップ



「五足の靴」のひとり吉井勇の歌碑が大江天主堂の木陰に立っている。北原白秋は、処女詩集『邪宗門』に、太田正雄(木下本太郎)は、『天草組』に、異国情緒あふれる天草の旅を、詩に残し、天草を世に紹介しつ。

野の花 里の花
海と山と花の旅
天草、守土半島の野には、ツバキ、ハマユウ、ハマジンチョウ、シマリソバ、ハイビスカスなどが咲き、里ではトルコギキョウ、コショウ、バラ、マゲレット、スターチス、コギク、スチリ、スプレーカーネーション、フリージア、宿根カズミソウ、キンギョソウなどが栽培されています。

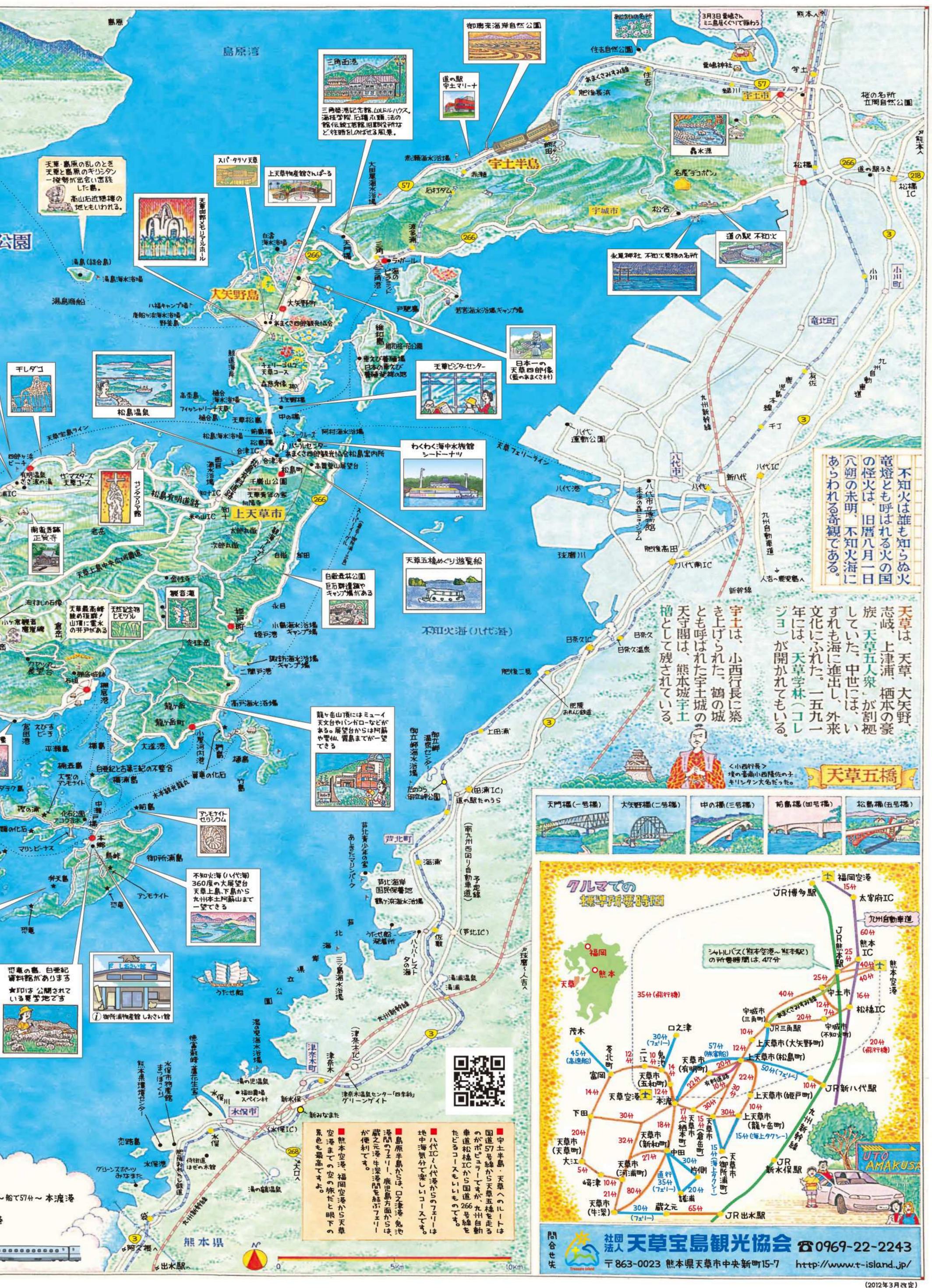
キリシタンと火の山の
哀史を映す海
瀬戸にイルカは遊ぶ

「天草・島原の乱」は、世にキリシタンの反乱と伝えられているが、実は幕府体制下の悪政と重く年貢に対する農民一揆でもあった。後に天領天草の初代代官として富原に着任した鈴木重成は、年貢の軽減を幕府に嘆願し、天草の実情を訴えたといわれる。



天草灘の夕陽は日本随一の景観
ガラスの香る葡萄酒の色の輝き

- 新幹線各駅から天草へのルート
- 熊本駅～おまきみきみ線で50分～三角駅～徒歩5分～三角港
 - 熊本駅～車で約120分～本渡
 - 出水駅～シャトルバスで約65分～蔵之元港～船で30分～牛深港
 - 新八代駅～車で約10分～八代港～船で50分～松島港



不知火は誰も知らぬ火
 童燈とも呼ばれる火の国の怪火は、旧暦八月一日(八朔)の未明、不知火海にあらわれる奇観である。

天草は、天草、大矢野、志岐、上津浦、栖本の豪族、天草五人衆が割拠していた。中世には、いづれも海に進出し、外来文化にふれた。一五九一年には、天草学林(コレジオ)が開かれてもいる。

宇土は、小西行長に築き上げられた。鶴の城とも呼ばれた宇土城の天守閣は、熊本城宇土櫓として残されている。



天草五橋



■ 熊本空港 福岡空港から天草空港までの空の旅は眼下の景色も最高ですよ。

■ 島原半島からは、口之津港 魚池港のふり、鹿島方面からは、蔵之元港 深瀬港を結ぶフェリーが便利です。

■ 宇土半島・天草へのルートは国道57号線から天草五橋を走るが、ポピュラーですが、九州自動車道松島ICから国道266号線を通るコースもおすすめです。

■ 八代ICと八代港からのフェリーは地中海気分を感じやすいコースです。